

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポブラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6-12		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に愛されるホームを目指しています。</li> <li>・毎日が健康で、仲良く元気で暮らすことができるように支援しています。</li> <li>・健康で笑顔のある生活</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901431&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901431&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 2 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは旭川市の郊外の住宅地に位置し、バス停から近く、商店、学校、町内会館などがあり、地域に溶け込んだ支援が出来る環境にあります。同地区には系列の居宅支援事業所や訪問支援、デイサービス、有料ホームなどの介護事業所が点在し、高齢者を支える資源となっています。運営推進会議の中でも独居高齢者や認知症について話題が上がり、地域での継続的な見守りや支援が検討されています。当ホームは開設して8年目を迎へ、利用者の重度化も目立ちますが職員は穏やかに寄り添い、ゆっくり解り易い言葉で話し掛け、相手の発言を待ち、要望に沿えるように努めています。1日3回の食事が利用者の楽しみに繋がるよう、食べ慣れた食材や献立の煮物や胡麻和え、白和え等を提供し、秋には利用者と一緒に漬物を漬け、毎日「おいしいね」と、満足して食べる笑顔が職員の喜びになっています。看護学生や社協のボランティアも受け入れ、地域に開かれたホームとなっています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	レ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	レ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	レ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	レ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	レ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	レ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	レ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	レ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい所に掲示し日常業務の中に活かせるように意識しながら業務している。	理念は「人間への深い愛と理解」、「社会の福祉に対する奉仕」をあげ、ホーム長は職員に対し、機会あるごとにケアの中で、理念を活かすため具体的な説明をし、日々の実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、周辺の散歩、買い物等を通じ顔見知りの関係を築き、挨拶、会話に発展し交流を深めている。	町内会行事やホーム行事は回覧にて周知し、双方向的に参加しています。また、高校の吹奏楽との交流、社協からフラダンス、コーラスのボランティア、地域の退職者によるチンドン屋の演奏など、交流し楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事活動の際町内を通じて、お誘いし、参加して頂き触れ合いを通じて、理解をして頂くように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催の折、事業者内の出来事などを報告し、結果などについて意見を頂いたり経験談等をお聞きしている。拝聴した事項、アドバイスなどを参考にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は早めに開催計画書を提出していますが、市との調整がつかない事もあります。それ以外は定期的に開催し、地域の高齢者問題、認知症の現状など、幅広く議論され、サービスの向上に活かしています。議事録は家族や欠席者に届けています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに管理者は、市担当者と連絡を取ったり訪問しており協力し合える関係を築いている。	市介護保険課から運営推進会議に参加して頂き、ホームの実情やケアの取り組みなどを伝え、協力関係を築いています。また、保護課の職員との連携も図りながら、サービスの向上に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケア実践の中で、拘束の3原則に当たるか否かを念頭に意識しながら職員同士、話し合いながらケアに取り組んでいる。	日中玄関は施錠されていません。共用スペースから玄関の出入りが視界に入り、利用者の外出を察知した場合には、職員がさり気なく同行し、自由な暮らしを支援しています。全員参加の会議や、毎日の申し送り時においても身体拘束について話し合い、職員間で意識づけをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は機会あるごとに虐待防止の勉強会に自主参加し、ミーティングなどの際に報告し、管理者始め職員全体が考える機会を持ちケアに当たっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し学ぶ機会を得ており、家族からの要望がある時は、共に考え活用できるように努力し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、契約の際ご家族に説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を面会時に話合えるような雰囲気作りや声掛けし話あえるようにしている。又家族会開催時には自由に意見交換できるようにし運営に反映している。	家族の意見は運営推進会議や、家族会（年2回）で気軽に話し合い、不安など解消する事が出来ています。また、年4回の「ホーム便り」や、スナップ写真などの発送時に利用者の状況を個別に報告するなど、信頼関係を築きながら意見・要望を引き出しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月1回の定例ミーティングの際に意見を出せるように配慮し提案などに耳を傾け、反映させている。	毎朝の申し送り時や全体会議で、職員の意見交換や気づき・アイデアを伝える場面があります。要望については、必要時検討し運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務表や勤務実績などを把握し個人の能力や向上心を保てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員へ個別に技術指導をしたり、研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者同志の勉強会グループを作り同業者連合主催の勉強会など開催しサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時に家族やご本人と面談し今までの生活歴や生活環境をお聞きし今困っている事や不安な事などを傾聴し、お話しあう事により不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の段階で、施設見学や家族の困っている事などに耳を傾けお話を伺う場を設けて、信頼関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の面接時に管理者、計画作成担当者、介護リーダーが家族との話合いの場に同席し、一番困っている事を見極め、サービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の出きることを職員が見極めの目を持ち職員間で話し合い、できる事をお願いしたり尋ねたりアドバイスして頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、ゆっくりと過ごせるように居室でお茶などを飲みながら過ごせるように配慮しています。職員は日ごろの様子を伝えたり、お便りを発刊し情報を提供、家族様と共に一緒に支えていく関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚などへの電話のやり取りの取次ぎをしたり、何気ない会話などからなじみの風景の写真などを見せたり会話の中に昔の情景を思い出せるように配慮している。	行きつけの医院受診や理・美容室に出掛けたり、お盆には家族の協力で墓参り、仏壇を持ち込んでいる利用者は、お寺さんに来て頂いたり、新年には初詣に出かけるなど、個々の生活習慣を尊重した支援を行っています。また、家族・友人・知人の繋がりが途切れないように働きかけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を把握し利用者同士の係わり合い、相性などを考えゲームや食事の席などに配慮している。又お茶の時、体操の時間、レクリエーションを通して一同に集え関わり合いがもてるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去決定後も入院中の方へのお見舞いやその他の支援をし、家族の希望により他機関への紹介、相談に乗っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から思いや意向を聞き取り意に沿うようにしている。本人が思いを表現出来ないときは、日々の生活の中から把握して支援しています。	職員は利用者に穏やかに寄り添い、わかりやすい言葉で話しかけ、気長に発言を待つように関わっています。把握が困難な方でも、センター方式の活用によって、利用者本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から思いや意向を聞き取り意に沿うようにしている。本人が思いを表現出来ないときは、日々の生活の中から本人の思いを探り対応している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が関わりの中から1人1人の思いを探り、話し合いをし、状態を把握するように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わる人たちから、課題やケアのあり方の意見交換し計画を立てている。定期的な計画の見直し、状態の変化や新たな問題発生時はアセスメント、モニタリングを行っている。	利用者や家族の思い・意向が、介護計画の策定過程の中で盛り込まれ、ケアの実践上での記録も追行され、効果的に評価がされています。利用者や家族の意向が変化した際には、プランを変更するためのモニタリングやアセスメントを行い、カンファレンスにて、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録に日々の様子を記録し、都度の対応の良し悪しを特記事項に記し見直しに生かすように努力している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人の状態の変化に伴い必要時にカンファレンスなどを開きニーズに対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各個人家族からの要望に答える様に努力し地域の理美容等を利用している。消防訓練などの時は町内の人々にも見学や参加などをして頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人の掛かりつけ医を継続して受診し新規受診の必要時には家族と相談、確認、了解を得て受診している。	利用者や家族が望む、かかりつけ医の受診支援が行われています。受診には家族や職員が同行し、結果は家族に報告し、記録されています。提携医は月2回の往診で対応し、歯科医も必要時に往診で支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携、各個人の掛かり付け医の看護師さんと連携を取り変化時には連絡を取り相談、アドバイスを受け、必要時は主治医と連絡を取っていただき対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、個人の状態の情報提供し、経過を追って医療関係者、家族と相談しながら早期回復、早期退院に向け努力している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医等と話し合い必要時は家族、病院関係者、管理者と話し合いの場を持ち職員へと話を繋げて支援体制を取っています。	重度化や終末期の指針は整備され、家族の理解は得られています。重度化した場合の対応について、繰り返し話し合いを持ち、関係者と方針を共有して信頼関係を保ちながら、看取り支援にも取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先などを個人ファイルに貼付し連絡、対応出来るようにしている。救急救命の仕方を消防の講習から学び実行出来るように努力している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、消火器、火災報知機の場所などの把握、避難場所などを確認しあい、地域の人々にも協力していただけるように町内会にも協力をお願いしている。	防災訓練は、消防署や地域住民の協力を得て定期的実施され、地域住民の役割も明確にしています。夜間を想定した訓練は、ホーム長の指示の下、非常階段からの誘導訓練を実施し、実施後の反省や記録などが不足し、欠席職員に伝わりません。	重度化するホームの実情から、一人夜勤は職員も不安を抱えています。全職員が夜間を想定した訓練を度々重ね、その都度、実施状況と反省を含めた話し合いや記録が求められます。反省点などから次のステップに向けて取り組み、消防署の指導を仰ぐこと等も期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々個室にて生活され、プライバシーは保たれており、職員は尊厳を持って対応するように心掛けている。	職員は利用者の気持ちを尊重しながら、さり気ないケアや馴れ合いにならないケアを心掛けています。便りに掲載される利用者の写真について、利用者や家族からの同意書を交わさないまま今に至っています。	職員間で個人情報の細部について研修を行い、徹底する事が望まれます。入居時の個人情報同意書の使用項目に、スナップ写真などの公開についても記載する事を期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の言葉では表せない表情、体動を観察し声かけし対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調に合わせて食事の時間などをずらして食べて頂いたり、レクリエーションの参加も強制しないようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師さんに来訪して頂きカット等をして頂いたり、一緒に買い物に行ったりマニキュアを楽しんだりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備（皮むき、もやしの処理）を共にを行い、その野菜が何に使われるか会話しながら行っている。テーブル拭きなども手伝っていただいている。	利用者の馴染みの料理や、好みの食事を提供するように食材購入から、献立、調理にこだわって取り組んでいます。秋には利用者と一緒に漬け物作りをして、毎日食べられる事が喜びに繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に合わせ盛り付け量を増減したり、一日の摂取量を記録し、食べやすい形にして対応したりしている。各人の嗜好、体調の把握に努め対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、職員が付き添い出来ない部分は介助して清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄に心掛けている。プライバシーに配慮し各々にあった支援をさりげなく行うように努めている。	利用者の排泄状況を把握し、個々の状況に沿ってトイレでの排泄に努めています。夜間おむつであっても、日中はトレーニングパンツとパット類の使用で、失敗を減らすよう、さりげなくトイレへ誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	離床時間を多くし、体操などの運動を行い、食事のメニューにも食物繊維の多いものを取り入れたり、ヨーグルトなどを多く利用するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各個人の体調に配慮し、入浴を取りやめたり、シャワー浴で対応するなど配慮している。	入浴は、利用者の希望を確認して対応しています。状況を見ながら湯船に入って、リラックスできるよう努めていますが、重度の方には全身シャワー浴の設備が整い、喜ばれています。入浴を拒む場合には、日を変えたり、時間をずらしたり、人を変えたりして工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人に合った寝具を使用し冬季は暖房器具（湯たんぼなど）を希望に沿い使用していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々のケース記録に薬の説明書貼付し確認できるようにし、準備するときに2度のチェック体制を取り内服時には人物と薬袋の名前を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の希望に沿い戸外の日光浴、散歩などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各人の要望あれば日光浴、散歩を楽しんでいただいている。家族との外出、外泊も希望に沿って行われている。	冬季間の外出は減っていますが、雪まつりを見ながらドライブ、買い物、受診に合わせて喫茶店に立ち寄るなど、個々の要望に沿えるよう支援しています。また、家族の支援で、外出や外泊も行われています。冬季間の体力維持のため、体操や歩行訓練に力を入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来る方々には、家族との話し合により、イベントや買い物受診時に買い物していただく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、友人からの電話などは、取次ぎ子器などを使用して居室で、会話出来るようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中から見える所で、出入りに邪魔にならない所に季節の花や鉢などを置き楽しんで頂いている。	ホーム内は、全体的に広く、利用者が移動に歩行器や車椅子を使用しても、ゆとりがあります。廊下や居間の壁には、利用者の作品が飾られ、リビングから冬季以外は、菜園やあじさい、藤棚が見られ、利用者の心を和ませています。共用スペースには、ひな人形の展示から季節感もあり、家庭的な雰囲気になっています。冬季間の乾燥や空気よどみには、窓を開けて喚気し、利用者が居心地良く過ごせるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で、気のあった人たちが同じソファに座り談笑している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを配置して安心して過ごせるような場所としている。	居室は明るく清潔に保たれ、入口には手作りの木目調表札と、暖簾が下げられ、自室が解り易くなっています。使い慣れた鏡台やちゃぶ台、大切な仏壇を持ち込み、それぞれに使い勝手や身体状況に応じて配置されています。賑やかに家族の写真や作品を飾られている方など、それぞれが居心地良く過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室にて生活されており、その中で夜間は個人の生活サイクルに合わせてポータブルトイレを設置したり、鈴などで用を伝えて頂いたりしている。		